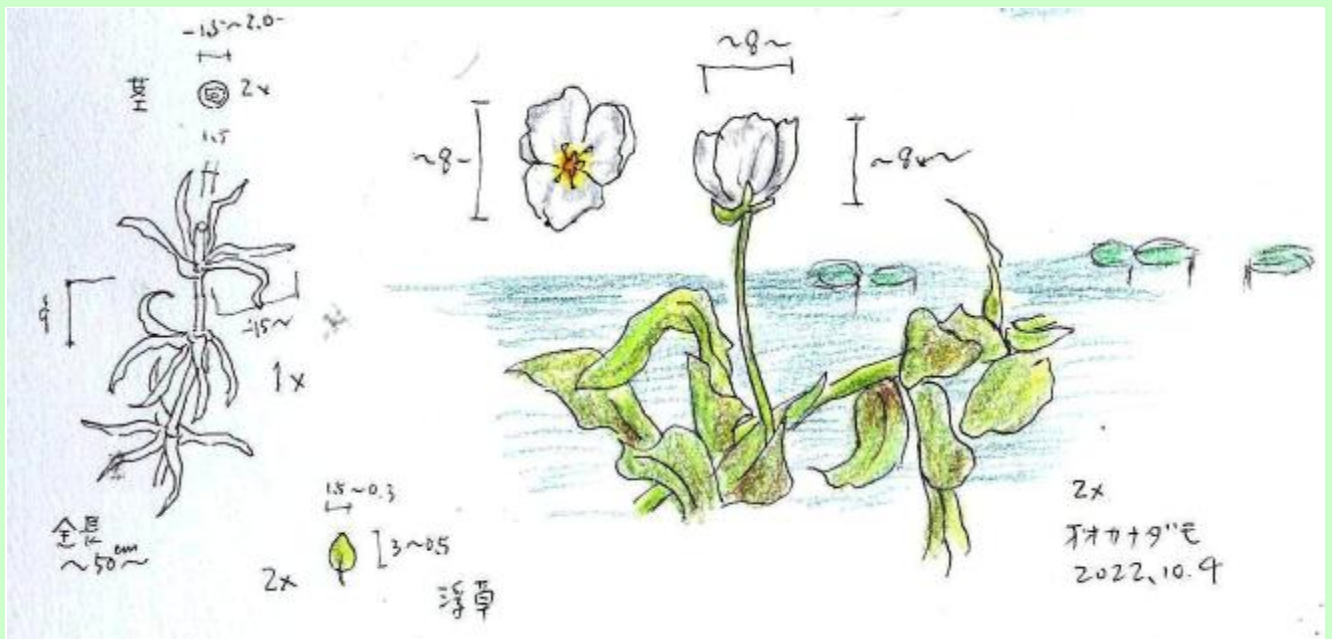


見ぬま田んぼ

野草スケッチ「オオカナダモ」大加奈陀藻

分類：トチカガミ科 オオカナダモ属

花言葉：－



この水草のことは、先月のブログに書いたのをごらんください。この草のことは、今回初めて見沼代用水で花を見つけたのだが、可憐な花なのに大変丈夫で水中で増殖し航行の邪魔になるなどや琵琶湖で大繁殖し問題をひき起こしているという。佐賀県は県条例で本種を移入規制種に指定している。1940年代に山口県で野生化の記録がある。低温や水質汚濁などの悪条件にも耐え、増えやすいという。



「オオカナダモ」

世界：	南アメリカの亜熱帯～温帯地域（ブラジルのミナスジェライス州、ウルグアイ、アルゼンチン）原産。
生育地：	本州、九州、四国に定着し、北海道を除く
茎 丈：	全長 1mを超え 三輪生から六輪生
葉	長さ15 - 40mm、幅 2.0 - 4.5mm 程度
花期：	5月から10月ごろ
花・花色：	水上に白い花 三弁の丸い花卉
種子：果実	—
特徴：	日本では雄株のみが生育、低温や水質汚濁などの悪条件にも耐え、増えやすい。細胞の観察がしやすい素材の一つ、「アナカリス」の名で売られている。いわゆる金魚藻のひとつである。茎節から盛んに新しい枝を出して無性繁殖。
由来	大正時代に整理実験用に持ち込まれた北米原産種のカナダモに似ていて大形種であることから。 <small>※ 解説 :GKZ 植物事典・オオカナダモwikipediaから御借りました。写真は植木が撮影。</small>